

12月議会に提案された補正予算の主なものを紹介します！



県民百貨店・センターフラテナント撤退への支援策

① 県民百貨店等求職者再就職支援事業

【雇用相談窓口設置ならびに合同就職面談会開催経費】 予算 300 万円

(1) 雇用相談窓口

- ・日時：2014年6月～2015年3月
(月・水・金の10～17時)
- ・場所：熊本市消費者センター
(駐輪場ビル5階)
- ・社会保険労務士による雇用・労働相談

(2) 合同就職面談会等の開催

- ① スキルアップセミナー開催
2014年12月～2015年3月
パソコン、面接対応、キャリアカウンセリング
- ② 合同就職面談会
2015年3月頃に開催を予定

【資格取得講座開催等経費】 予算 250 万円

2015年2～3月に資格取得講座、短期スキルアップ講座を開催し、企業とのマッチングを図る。

講座の内容は、IT 関連、介護等、基本的なパソコン操作の研修です。

② 商店街空き店舗対策事業

現在熊本市が実施している「商店街空き店舗補助事業」を拡充して実施するもので、本市商店街への移転に係る店舗改装費の一部を補助する。

【テナント改修経費補助】

- ・補助率：現行 1/3 → 1/2 に
- ・限度額：現行 50 万円 → 100 万円
- * 15 店舗程度を予定
- 予算 1500 万円

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団
 ますだ牧子 上野みえこ なすまどか
 熊本市中央区手取本町1-1 議会棟

NO. 929
 2014年12月14日号
 電話 328-2656
 FAX 359-5047
 メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
 ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/



2015年度からの特別支援学級新設要望に伴う改修経費

小中学校合わせて、33校・38学級の新設を県に要望しています

【小学校】(23校・23学級)

- 知的：碩台、池田、高平台、飽田東
中緑、奥古閑、田原
- 病弱：城西、画図、健軍、川尻、
御幸、長嶺、杉上
- 肢体：東町、長嶺、桜木東、飽田南
- 弱視：託麻西、川上、植木
- 難聴：託麻北、弓削、

【中学校】(10校・15学級)

- 知的：飽田、天明、長嶺
- 病弱：託麻、西原、東町、長嶺
- 肢体：藤園、江原、東町、
飽田、力合
- 難聴：託麻
- 自情：城南、天明

* 改修を必要としない学級もあるので、予算は33学級分2710万円を計上。



【控室から】

「日本共産党」への幅広い期待

上野 みえこ

総選挙にあたり、各界著名人の方々が、日本共産党への期待を寄せてくださりました。

私が日頃お稽古している表千家茶道とゆかりの深い有馬頼底氏(臨濟宗相国寺管長)をはじめ、池辺晋一郎氏(作曲家)、石川文洋氏(報道写真家)、小川典子氏(ピアノ)、高畑勲氏(アニメーション映画監督)、降旗康男氏(映画監督)、松井朝子氏(パントマイミスト)、山田洋次氏(映画監督)、上田誠也氏(東京大学名誉教授・日本学士院会員)、本多勝一氏(『週刊金曜日』編集委員)など、研究者・文化人・宗教家・マスコミ関係等広範な分野の46氏です。

いずれの方々も、いのち・暮らし・平和を破壊しようとする安倍自公政権の暴走に危機感を持ち、共産党に頑張ってもらいたいとエールを送られています。たいへん心強い応援です。

消費税10%への増税は先送りではなく中止、原発の再稼働は許さない、集団的自衛権の行使容認の撤回など、国民の要求を高く掲げ、期待に応えられるように頑張ってくださいと思います。

第5回産文解体・広場整備ムダづかい住民訴訟

12月10日、産業文化会館解体・花畑広場建設のムダづかいをたずねる第5回住民訴訟では、益田牧子議員が意見陳述を行いました。被告である幸山前市長側は、「熊本市議会の議決及び特別委員会の審議を経て、誠実に、花畑地区広場構想についての経過を進めてきたものであり何ら違法性はない」と述べています。益田牧子議員は、桜町・花畑地区再開発事業の付帯決議に関する特別委員会での複数議員による真剣な論議を紹介。産文解体や広場整備が、「誠実」どころか、市議会の論議をも無視した強引なやり方だったことを意見陳述しました。

自民党会派議員からも、「議会軽視止」と厳しい批判

産業文化会館廃止に至った「花畑再開発計画」は、熟度が低い甘い計画であったことが、特別委員会でも複数議員から厳しく指摘されました。

平成25年5月1日の特別委員会には、高田晋副市長が参加し、産業文化会館を取り壊し、花畑広場を整備することに至った「花畑再開発破たん」の経緯を説明。「劇場機能と言うのは、大変魅力的であると考えまして、中心市街地の活性化に向け支援するところでございます」「結果的にできなかつたということについては、重く受け止めている」と述べました。

4月23日の特別委員会で、廃止条例の提出当時経済委員会委員だった竹原孝昭委員からは、「産業文化会館を廃止する時の条件として、ちゃんと事業（再開発事業）をやるといことでしたわけでしょう。そこで頓座しました。頓座した時には、元に戻して、議会と市民の意見と執行部とかが、そして1からスタートしますという話だったんです。そのことが置き去りにされて、先に先に進んでいく。そして、再開発の話も、本当にじっくり議論して、計画して、そしてスタートしたわけではないわけです。だから、こういう結果になつたんです。それをまた、その結果も検証せずに、ただ、今言われたように社会情勢の変化とか、経済情勢の変化とか、これは当然わかっていることでしょう」と議会軽視で再開発計画や広場整備がすすめられたことを厳しく批判していることを紹介しました。

また、当時の経済振興局長であった多野春光農水商工局長が、「もし再開発ができなければ、リニューアルという選択肢にあるということは、私ども経済担当部局も考えていた」と答弁していることを紹介しました。

産文会館「老朽化」は市民・市議会を欺くもの

「花畑広場計画は、過大な耐震診断結果を根拠にした恣意的なものと複数議員から指摘され、産業文化会館廃止の論拠とされた「老朽化」の根拠が崩れた」と指摘。4月23日の特別委員会では、花畑再開発破たん後の広場への転換の理由として、多野春光農水商工局長は、「再開発が立ち上がらないという結論が出る中で、リニューアルするかということでは、設備関係に多額の経費を要する。耐震の問題もある。そういうことを考える中で、桜町に機能を集約し、産業文化会館の跡地は、広場として潤い空間もしくは良質な空間の一角を担う場所としてやった方が、中心市街地の全体を考えた時にいいのではないかと」と答弁。

しかし、耐震問題では、4月10日の特別委員会で、落水清弘委員からは「これは、あたかも一番数字が小さいから、壊さないと印象づけるように説明されていますけれども、私が専門家から聞いた話では、耐震補強すれば使えるんですよと、皆さんおっしゃっている部分があったでしょう。いつの間にか、壊すことありきのデータに勝手に、皆さん方、説明を変えていらっしゃるのではないですか。これは、まだ補強すれば使えますよというデータなんですよ。」と指摘。

山口英二営繕課長は「技術的には、十分改修可能でございます」と答弁し、江藤正行委員長は「そんなにころころ話が変わったらだめよ」と言い、落水清弘委員は、「それが事実なんです。その事実をいつの間にか湾曲して、すれ違えて変えていくんですよ。あたかも壊さないといけないというふうに、市民に印象づけてきている、そのことが問題だと私は申し上げているんですよ」と追撃したことを紹介しました。紫垣正仁委員外委員からも、12月議会、第4回定例会の開会日に、熊本大学の名誉教授耐震化の権威である三井先生と一緒に産業文化会館を視察。「耐震診断が、10年までにならないけれども、9年くらいたっているけれど、評価は変わらない。耐震補修すれば使える」との三井名誉教授の発言を紹介。

益田議員は、耐震構造の専門家として、三井教授の参考人招致を提案したが、実現しなかったと陳述。特別委員会では、産業文化会館解体・広場の予算化に対して、厳しい批判があったこと紹介し、裁判所の公正な判断を熱望しました。

2014年12月14日日本共産党市議会だより